

臨地実習（精神看護学 / 教育・研究コース）

[実習] 1年 後期 必修 90時間 2単位

《担当者名》○八木こずえ [co-yagi@hoku-iryo-u.ac.jp]
宮地 普子 [miyajih@hoku-iryo-u.ac.jp]
中安 隆志 [nakayasu@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

精神病院や地域の諸施設において、特論や演習で学んだ精神力動論やその他の実践モデルを活用し、指導教員や実習指導者のスーパーバイズを受けながら直接的看護ケアに関する実習を行い、看護の質の向上に資する考察や研究に結びつく視点を獲得する。

【学修目標】

1. 講義や実務経験から得られた自己の課題に基づいて実習目的や目標を明らかにし、適切な実習場所を選定できる。
2. 自己課題に応じた対象選択を行い、実習計画を立案する。
3. 疾病の臨床像や生きにくさなど患者の全体像を包括的にアセスメントし、看護理論の活用を試みる。また看護実践に発展的変化をもたらすためのケアの視点を考察できる。得られたケアの視点からの実践と評価ができる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|------|---|----------------|
| | 実習課題 | 看護援助の諸枠組みを活用し、統合失調症急性期または慢性期のケアを実践、評価する。 | 八木 宮地 中安 |
| | 実習方法 | 1) 学生は直接的看護ケアに関する実習計画書を提出する。 2) 学生は、実習目標や倫理的配慮を十分認識した上で実習に入る。 3) 実習計画書をもとに、実習施設指導者、担当教員との打ち合わせに参加し、十分な協議を行う。 4) 活用したモデルや実践経過、ならびに評価をケースレポートとして作成する。また、実習の過程で直面した諸問題について、問題の本質や解決へ向けての具体的な方法等について考察し、レポートを作成する。 | |
| | 実習場所 | 精神病院、または地域の諸施設 | |
| | 実習期間 | 期間は概ね4週間とするが、直接的看護ケアは患者の状況に左右されるため、一定の評価が可能な期間とする。 | |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習評価表（40%）、実習レポート（60%）により評価する。

【学修の準備】

実践能力を高めるための自己課題を明確にし、実習計画に反映させること

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。